



椿島・竹島



荒島

町の活性化と産業振興の 大きな力となる観光業として。

阿部会長 観光は、志津川町の大きな基幹産業のひとつとして位置付けられます。海と山が両立してあること。そして海でも山でも体験ができることは、観光資源としても大きな魅力です。



阿部隆二郎さん(観光協会会長・ホテル観光専務)

及川副会長 志津川は、山海のバランスが良い、自然の調和のとれた地域です。そして「食」のいいものがあるところと捉えてくれているようです。観光は、独立した産業として位置付けられてよいと思います。産業振興の重要なキープポイントであり、外貨を獲得する意味では最高の方策です。



及川善祐さん
(観光協会副会長・株及善商店社長)

菅原(長)理事 外貨を得ることはもちろん、知ってもらい、人を呼び込むなど、志津川をPRすることで、泊まる、遊ぶなどいろいろな形で、町の産業への波及効果も生まれてきます。また、人との出会いを生み、情報も得られます。

菅原(長)理事 校舎の宿さんさん館でも多くの体験メニューを取り入れています。都市と田舎を結びつける、自然を生かした体験の宿として民宿を活用してもらいたいと考えています。



菅原塚夫さん
(観光協会副会長・志津川観光タクシー(有)社長)

及川副会長 海や畑は農漁民の大切な収入源です。安全・安心性も兼ね備えた準備や受け入れの問題など、観光産業として、体験型観光を確実な収入源にするためには、町としての体制の準備やシステム作りが、これからです。

今を見つめ、未来を見つめる 「観光の町として」

南三陸金華山国定公園の中央に位置し、美しい自然とその恵みが豊かな私たちの町。志津川町の観光客の入り込み数は、平成二年度から継続して年間六十万人を突破し、南三陸地域の観光の拠点として位置付けられています。観光資源としての志津川の魅力や可能性、観光の町としての課題や展望などを、観光協会の方たちに語っていただきました。



菅原長弥さん
(観光協会理事・民宿組合長)

菅原(長)理事 イベント開催時などは、町内での密な横の情報連携により、さまざまな個人や団体が支援したり、参加、活用したり、もつと多岐に広がりを持てると思います。

菅原(長)理事 イベント開催時などは、町内での密な横の情報連携により、さまざまな個人や団体が支援したり、参加、活用したり、もつと多岐に広がりを持てると思います。

自信と誇りを持って、 志津川を再発見し、その良さを発信しよう

阿部理事 人口が減少していけば、町として発展する可能性も少なくなりますが、働く場所や遊べる場所を提供していきながら、魅力ある町を目指していかなければいけないと思います。

松野理事 観光客がいなければ、町としても成長しません。年をとっても、志津川に住みたいと思ふまちづくりを進めなければ、観光客にも受け入れられない。自分の大好きな志津川をもっともっと知ってもらいたいです。

山本理事 新鮮な魚介類がすぐ食べられる場所できれば海の見えるところに道の駅があればいいと思います。新鮮なもの獲れたての味は全然違う。都会にはない、志津川の良さをもっとPRしていきたいですね。

及川副会長 交通アクセスは、重要なポイントです。仙台以南特に東京関東方面にも目を向けながらも、国道398号や国道45号

喜んでもらえる志津川の魅力をバネに、 さらに知名度アップへ。

及川副会長 課題や問題点もありますが、一つは、みんなで工夫して地場料理でもてなしていただける店を作った方がいいのかなと思います。現在ある、町の寿司屋さんやおそば屋さんなど、おいしいお店はたくさんあるのですが、たくさんのお客さんが来てくれないと商売として成り立たない。お客さんをとんとん呼び込める新しい受け皿を作りながら、その受け皿を地元でシフトアップさせれば、数多いリピーターを迎えられるのではないのでしょうか。



松野三枝子さん
(観光協会理事・JA南三陸女性部長)

山本理事 道路標識が分かりづらい、道案内が足りない、という話をよく耳にします。

菅原(塚)副会長 交通の便が一番の問題点ですね。東北新幹線や三陸自動車道はあるものの、そこから志津川までが遠い。なににより、三陸道の早期開通が必要ですね。

阿部会長 仙台から二時間弱ですから、宿泊するにはちょうど良い距離ですが、東京などでは、地名だけではイメージが湧かないという問題もあるようですが…。

阿部理事 志津川という知名度は、まだまだ低いようです。志津川では、川でタコが獲れるの？との問合せがあったこともあります。

松野理事 志津川は遠いというイメージを持っている人は意外と多いようです。志津川タコの良さを分る人も年々減ってきています。志津川の良さが、まだまだ知られていないのは事実です。が、志津川の味をどうぞと言っただけで足を止めてもらえる。行ってみたいともよく言われます。志津川と言っただけで、興味を持ってもらえるのも事実ですよ。

及川副会長 年に二〜三回、行事やイベントの案内のため、県内や岩手県南をキャラバンを組んで廻っています。

菅原(長)理事 「観光の町」の匂いがするまちづくりを進めていくこと、たとえば公共施設の色や構造、観光地に似合うサインなどにも配慮が必要だと思います。また一年を通して楽しめる見れる場所があればいいですね。町全体または広域として、横のつながりで互いに交流しつつ、共に振興していく体制の構築も必要だと思います。

菅原(塚)副会長 何度行っても飽きない、また行きたいと言われる、滞在型の観光の町にしたいですね。若い人たちは「志津川には何も無い」と言いますが、そんなことはない。たくさん良さがあります。人情がある、魚が旨い、海が広い、山が豊かとか、感性を發揮して、もつと自分の町を見つめてほしい。そして志津川の良さを発信してほしいですね。



阿部真司さん
(観光協会理事・まるしん釣具店)

阿部会長 志津川観光の一番の源でもある、この美しい自然環境をいかに守り続けていくかも、これからの大きな課題だと思います。年に何回、何十回と足を運んでくれる方たち、志津川の良さを知ってくれている方たち、そういうリピーターを一人でも増やしたい。そのためにどうするのか、どうPRしていくのか、工夫しなければなりません。

及川副会長 何度行っても飽きない町というのは、住んでいる私たちが楽しくやっていかなければ…。あの人たち、何だか楽しそうだなと思っていたかかないとタメですね。私たち自身が、自信と誇りを持って生きることです。そうでなければ、子どもたちも町に残らない。どう取り組むかを、みんなで一生懸命に考えていければいい。目先のことだけでなく、この先ずっと喜ばれるような志津川のあり方を考えていきたいと思います。何より、私たちが温かい人間として、おもてなしができること。そして、したたかに志津川ブランドをPRしていくことが大切なのではないでしょうか。



入谷地区



山本貴和さん
(観光協会理事・山本セメント(有))



松笠屋敷

